

碧南防災ボランティア連絡会 定例会 議事録

日時 令和4年 1月11日 (火) 午後7時～

場所 へきなん福祉センターあいくる 会議室2. 3

1 単管と番線とシノを使って小屋作り

／ブルーシートのテント・車中泊

番線とシノを使用し、木材を固定する方法を学び、体験。

2 直近の活動予定

(1) 居場所「ころころ」での防災食作り

日時：1月13日 (木) 10:30～12:00

場所：あいくる2階 多目的室

内容：直径20センチ鍋で6食分、直径25センチ鍋で10食作る。多目的室のコンロを使用。

ポリ袋でつくるカレーライス。

協力者：石川良さん、磯貝さん、斉藤さん、加藤さん、山田さん、鈴木美さん、山口さん

(2) 日進地区防災講座

大雨行動逃げ時マイタイムライン研修

日時：1月16日 (日) 13:30～15:30頃

※防災ボラ13:00集合

場所：日進公民館 ホール

内容：**グループワークで大雨災害時の避難・行動について検討し、共有。**

(3) 日赤勉強会

日時：1月20日 (木) 19:00～

場所：農業者コミュニティセンター

内容：地震、台風等の災害について

担当：**石川良さん、加藤さん、石川千さん、神谷幸江さん、山口さん**

(4) 普通救命講習 (防災ボランティア等対象)

日時：1月22日 (土) 9:00～12:00

場所：福祉センターあいくる 会議室1・2

参加者：防災ボラ11名、れんげ草メンバー7名、大浜まちかどサロンの方7名、**西端区の方3名、**

防災ボラコ養成講座受講者2名

その他：**あいくる開館時間が講習開始時刻となり当日準備の時間がないため、前日13時から会場設営を行う(会議室2は前日別予約が入っているた**

会員名 (敬称略)	出欠
石川 千栄子	○
石川 良春	○
磯貝 清	
板倉 美由紀	
大竹 敦子	○
柏谷 聖子	
加藤 政雄	○
神谷 賢司	○
神谷 幸子	○
神谷 幸江	
小池 友妃子	○
斉藤 富美枝	○
杉浦 卿子	○
杉浦 清隆	○
杉浦 光	○
杉浦 忠法	
鈴木 裕之	○
鈴木 美香	○
須田 翠子	
角谷 早苗	
高橋 銀吾	○
竹原 幸子	
永谷 健伍	
禰亘田 悦子	○
福田 幸子	
山口 多恵子	○
山田 美恵子	○
山本 真澄	○
渡辺 明博	
石川	
杉本	
鈴木 清貴	
井澤 義雄	
事務局	浅井

め会議室 1 のみ)。

(5) 西端区自主防災訓練

日時：2月13日(日) ※防災ボラ集合8:30

場所：西端小学校

協力者：

3 その他

(1) 応急手当の手順資料について

別紙資料参照。

(2) 今後の取組

- ・防災訓練にて、子どもがリュックに自分の好きなおもちゃやお菓子などを詰める体験。
- ・植木鉢を利用した調理(タンドリーチキン)。
- ・ユーチューブでの活動や情報等の発信(活動に参加できない人も興味を持ってもらえる)。
- ・水源公園での訓練もできないか(ロケットストーブ等)。
- ・VR機器を6台導入、防災展示等で活用していく。
- ・**車中泊体験、防災キャンプ。**

(3) 防災ボラ研修会

日時：1月30日(日) →**コロナ感染拡大防止のため中止**

(4) 令和4年度活動計画について

別紙資料参照。

【次回の打合せ】

日時：令和4年 2月 8日(火) 19時00分～

場所：へきなん福祉センターあいくる 会議室2・3

内容：防災・避難所に行かない工夫/高齢者・トイレ事情(事業計画より)

【次々回の打合せ】

日時：令和4年 3月 8日(火) 19時00分～

場所：へきなん福祉センターあいくる

内容：命をつなぐマイ非常食作り(事業計画より)

※社協からの連絡(メール送付)について

volacen@hekinan-shakyo.jp のアドレスからご連絡させていただきます。
連絡先が変更になった方はご連絡をお願いいたします。

応急手当

・突然のけがや病気に対して家庭や職場で、できる手当のことを「**応急手当**」と言う。

・そばに居合わせた人（住民）にできるのは、

「**心肺蘇生法**」 「**A E D**」 「**異物除去**」 の3つだけこれを**救命処置**と言います。

・「**心肺停止の予防**」 「**早期認識と通報**」 「**一次救命処置（心肺蘇生・A E D）**」

「**二次救命処置と心拍再開後の集中治療**」 **四つの輪** 「**救命の連鎖**」 と言う。

・異物除去：のどに異物が詰まった時、傷病者が咳をすることが可能であれば

咳が最も効果的です。声が出ないか、十分に強い咳が出ない場合は、119番通報を

したうえで以下の手当をします。

・**背部叩打法**（はいぶこうだ ほう）

傷病者の頭をできるだけ低くし、胸を一方の手で支え、他方の手のひらの基部で

左右の肩甲骨の中間あたりを力強く何度も叩きます。

・**腹部突き上げ法**（ふくぶつきあげ ほう）

傷病者を後ろから抱くような形で、上腹部（「へそ」のすぐ上、「みぞおち」より

下方の位置）に握りこぶしを当て、もう一方の手でその握りこぶしを上から握り、

瞬間的に手前上方に突き上げます。

※**腹部突き上げ法は妊婦や乳児には行えません**。

- ・ **胸部を突き上げる**

乳児の場合：乳児を仰向けにし、頭を下げ、後頭部と首（頸部）を支え、

指2本で胸の真ん中（胸骨の下半分）を数回強く圧迫します。

※これらの方法を行っている間に傷病者が反応（意識）を失ったときは、直ちに

胸骨圧迫を行います。

※腹部突き上げ法を実施した場合は、腹部の内臓を傷める可能性があるため、

救急隊にその旨を伝えるか、速やかに医師の診察を受けさせてください。

心肺蘇生法

- ・倒れている傷病者発見。
 - ・倒れている傷病者にいきなり近づかない。
 - ・周囲の安全の確認を行う。（交通事故、自然災害、二次災害の予防）
 - ・救助者の安全確保。（まずは、**自分自身の安全確保**）
 - ・傷病者に呼びかける。（肩をたたく等）この時顔を近づけすぎない。（感染予防）
 - ・乳幼児は足の裏をたたく。
 - ・呼びかけに反応がなければ（「**目的のあるしぐさ**」目を開けたり、返事をしたり、手を払いのける等）
 - ・その場で、大きな声で、協力してくれる人を呼ぶ。（なるべく多く）
 - ・集まってきた人に 「**あなたは、119番通報お願いします。**」
 - 「**あなたはA E Dをお願いします。**」 **必ず指名してください。**
 - ・呼吸の確認。「**胸、おなかの上下動き**」**10秒以内で行う。顔を近づけすぎない。**
 - ・反応がなければ、**すぐに胸骨圧迫を行う。**（救急隊が来るまで！！平均8分間）
- 胸の左右の真ん中にある胸骨の下半分に手のひらを当て、その上に手を重ね
- 立膝で足を少し開き、肘を曲げずに垂直に両手で圧迫する。
- 上半身の体重が、手の付け根にかかるようにする。

心肺蘇生法

- ・ 胸骨が5 c m沈むまでしっかり圧迫し、圧迫と圧迫の間は、胸がしっかり戻るまで十分に圧迫を解除する。
- ・ 乳児、小児の場合は、胸の厚さの 1/3
- ・ 乳児の場合は指 2 本で、小児の場合は片手で行う。（体格で判断する）
- ・ 1分間に100 ～ 120回 速いテンポで絶え間なく圧迫する。
- ・ 乳児は 1 才未満。
- ・ 小児は 1 才 ～ 16 才 未満
- ・ 人工呼吸「胸骨圧迫 30 回に 2 回、30：2 で行う。」
- ・ 倒れている人が大人の場合人工呼吸は、行わない。（感染症予防）
- ・ 人工呼吸用マウスピースがない場合。
- ・ 血液や嘔吐物により感染症の危険がある場合。
- ・ 乳児、小児の場合は行った方がよい。（良い結果が出ている。）

※傷病者が身内の場合は、この限りではない。

口対口（マウス トゥ マウス）人工呼吸 ※一般的には現在はやっていません。

とうぶ こうくつ あごさき きょじょう ほう

- ・ 頭部後屈あご先挙上法で気道の確保を行い、人工呼吸用マウスピースを用いて

約 1 秒かけて、傷病者の胸が上がるのが見てわかる程度の息を吹き込む。

一旦口をはなし、息が自然に吐き出されるのを待って、2 回目の吹込みを行う。

心肺蘇生法

自動体外式除細動器

オートメイティッド

イクスターナル

ディファブリレーター

・A E D が届いたら。

Automated

External

Defibrillator

- ・ふたを開けて、まず**電源**を入れる。（ふたを開けると自動で電源が入る物もある）
- ・音声ガイドに従い操作する。（音声の流れると少しは、落ち着く。）
- ・傷病者の着衣をはだけ胸を出す。 → **傷病者が女性の場合は、配慮が必要です。**
- ・**胸骨圧迫を行いながら電極パットを貼る。**（パットに描いてある図の通りに）
- ・体（胸）が、濡れている場合は、タオル等で拭き取ってから貼ります。

- ① 胸等貼る位置に貼薬 → 剥がして電極パットを貼る。
- ② ペースメーカー → ペースメーカーを避けて電極パットを貼る。
- ③ 金属製品、金具等 → ずらして、または電極パットの上にくるようにする。

電極パットには、大人用と小児用があり、 0～6才未満は小児用（**大人用でも可**）

6才～成人は大人用（**小児用は不可**）

- ・A E D の電極パットが貼られると A E D は心臓のリズムの解析を始め、
電気ショックが必要かどうか調べます。

この間傷病者の体に触れてはいけません。胸骨圧迫も一時中断です。

「**皆さん離れてください。**」と声を出して言います。

A E D から「**電気ショックが必要です。「除細動が必要です。」**」の音声メッセージ
が流れます。

心肺蘇生法

- ・「**皆さん離れてください。**」と声を出して言います。
- ・傷病者から離れ、**誰も触れていないことを確認したうえでショックボタンを押して電気ショックを加えます。**（この時、**傷病者の様子を見て、ボタンを見ずに押す**）
- ・電気ショックが終わったら（次の解析が始まるまで）**直ちに胸骨圧迫を行う。**
- ・救急隊員に引き継ぐまでこれを繰り返す行う。

※意識が回復しても電極パッドは剥がさない。

令和4年度活動計画

碧南防災ボランティア
連絡会

4月	FMB	担当	石川
5	FMB		//
6	家具固定		杉浦
7	ボランティアセンター立上		石川
8	//		石川
9	応急処置 止血		加藤
10	// 骨折		//
11	// AED		//
12	非常食		石川
1	//		//
2	給水		//
3	防災 コンテナ		//